



自分の足で

朝夕、少しずつ冷えてきました。並木坂に立っていてもひんやりとして気持ちいいです。子どもたちも爽やかに登校しています。

しかし、中には時々で遅れて登校してくる者もいます。「遅れちゃったね。寝坊したの？」と尋ねると、「はい」と答えたり、「準備が遅くなりました。」と話したりしてくれます。

誰でもあることです。遅くなってもきちんと自分で歩いて登校する。遅れたわけをきちんと話す。そんな経験が本人に反省を促します。たくましく成長することにつながります。

前任校でのことですが、ある雨の日に正門で子どもたちを迎えていると、一人の子どもが話しかけてきました。

「校長先生、ポンチョは全く役に立ちません。」

見るとズボンの下の方がずぶ濡れです。ポンチョは手軽な雨具ですが、一般のレインコートと比べ、腕や足を覆わないため、どうしても濡れがちになります。強い雨の中でポンチョを使った経験がなかったのかもしれませんが。

しばらくすると、別の子どもが次のように話しかけてきました。

「校長先生、ぼくは濡れても大丈夫です。タオルと着替えを持ってきました。」

そう言って、着替えを入れた袋を見せてくれます。激しい雨の状況を見て、ずぶ濡れになることを予想し着替えとタオルを準備してきたのだと思います。きっと、これまでの登校の中で、ずぶ濡れになった経験があるのでしょう。濡れた服をきて気持ちが悪い思いをしたのでしょう。しかし、そのような経験が着替えを準備するという考えや行動につながっています。

先に紹介したポンチョの子どもも、数日後の激しい雨の日には、下に雨合羽のズボン、長靴をはいて登校してきました。しかも、傘までさしているのです。まさに完全防備です。これだけの対策をしていれば、激しい雨の中でも服が濡れることはないでしょう。前回の経験を活かし、自分で考え、実行した点が素晴らしいと思います。

「指示待ち人間」とか「言われたことはするけれど、自ら考えて行動しない」など、若者の姿勢が非難されることがよくあります。また、「きついことを嫌がる」「辛いことがすぐ逃げる」などと言われることもあります。

しかし、よくよく考えてみれば、そのような若者を育てているのは私たち大人です。

雨の時は、子どもが濡れないようにと学校まで送ってあげたくなります。寒い冬に寝坊をしたら、学校に遅れないようにという配慮から車で送ることがあるかもしれませんが。

しかし、これらの行為は見方を変えると、子どもが自ら考え、判断し、行動するための場や機会を奪っていることにもなります。少々辛いことにも耐えて頑張る力を奪っていくことにもなります。雨の日や寒い日に歩くことも、寝坊をした時に遅れて歩いていくことも、子どもにとっては全てが学びです。

これから徐々に寒くなってきますが、考える子ども、たくましい子どもを一緒に育てていきましょう。